

【小学校高学年の部・最優秀賞】

終わりを告げていない戦争

白川小学校 六年

我如古 友香

テレビのスイッチを付けると

恐ろしい光景が

目の前に飛び込んで来た

津波におそわれ 逃げ惑う人々

目の前で肉親や友達が 流されていく

何も出来ないもどかしさ

側と一緒にテレビを見ていた祖父

ふと横を見ると

目に涙をためながら

画面から 目をそらした

それから ゆっくり 仏壇の方を見た

六十六年前の事が

フラッシュバックしたのか

祖父は 弟を対馬丸で失った

その光景が 重なってしまったようだ

いまだ 見つからない遺骨

きつとまだ

冷たい海の底にいるのだろう

だから 祖父にとつて

まだ 戦争は終わっていない

「おじいちゃん。ごめんね。

何もしてあげられなくて」

心の中でつぶやいた

心の奥底に秘めている想いを

少しでも 分かってあげたい

助けてあげたい

いつもの笑顔に 戻してあげたい

私に出来る事って何だろうか？

毎日平和に過ごし

何不自由なくいる私

今 私がここにいるのも

恐ろしい戦争を 生き抜いてくれた

祖父達のおかげ

「ありがとう」

その苦しみ 悲しみを

同じように 分かってあげる事は

できないかもしれない

だけど 二度と 無残な出来事を

起こしてはいけない

戦争は 人間の欲望が

生み出した物だ

戦争を起こしたものが 人間ならば

それを止める事が出来るのも 人間だ

今 まだ世界のどこかで

戦争をしている国がある

あの悲惨な体験をしたにも関わらず

でも 分かってもらえなければ

祖父の想いを

ずっと 消えない心の傷を

だから 私に出来る事を 一つずつ

やっていこう

そうすれば きつと

真の平和がおとずれる

だから信じて おじいちゃん